

男女共同参画社会へ向けて
一人の「100歩」より
100人の「いっぽ」を!!

いっぽ

Vol.12 2018



気づきうなずきフェスティバル ～知ってる? 知っ得! みんなで男女共同参画～を開催

1月27日、御代志市民センターで気づきうなずきフェスティバルを開催し、合志市内外から約450人の参加がありました。男女共同参画を理解することにより、職場、学校、地域、家庭その他社会のあらゆる分野で、男女がともに責任を分かち合い、能力が生かされ活力に満ちたまちづくりを推進することを目的としています。このフェスティバルを通して、改めて「気づき」、なるほどと「うなずき」、一人ひとりができることから取り組むきっかけになればと、毎年開催しています。

今回は、くまモン隊の出演、(株)熊本県民テレビアナウンサー村上美香さんの講演、木のおもちゃ広場などを開催し、子どもから大人まで多くの人でにぎわいました。

合志市・合志市男女共同参画推進懇話会

平成29年度 男女共同参画社会づくり 地域リーダー育成事業に 参加して

市では、地域で活躍する地域リーダーを育成するため、毎年6月頃、県主催の研修への参加者を広報紙などで募集しています。「職場や地域をもっと心地良い場所になりたい」「みんなが活躍できる場所を作りたい」と思っている方、参加してみませんか。

男女共同参画社会基本法が成立したのは1999(平成11)年のことです。この基本法ができて随分年月が流れたので、今回の研修に参加するまで、男女共同参画社会の実現について、もはや特別に目標に掲げたりしなくても、その考え方は浸透しているのではないかと思っていました。それを確認するために、くまもとパレア主催の今回の研修に参加しました。

そして分かったのは、用語としての「男女共同参画社会」は定着していても、その実現はまだ道半ばであるということでした。

昨年3月、合志市では第3次の推進行動計画が作られています。4本の基本方針のそれぞれに推進項目が挙げられていますが、ここでは総合計画の主要な事業と密接に結びつき、担当各課が男女のパートナーシップを意識しながら推進することになっています。

横浜市や東京都大田区で実施している子育て支援や相談業務、就労支援など、合志市でやっていないことはほとんどないと言っていいと思います。ですが特に男女共同参画推進行動計画に関係があることは思っています。見方を変えると、市の政策のほとんどを男女共同参画という観点から捉え直すことができるということです。そういう意味では、現状と課題はきちんと認識されていますが、それと成果指標の間をつなぐ変化や変わらない問題点を具体的に把握して改善することが必要なのではないでしょうか。

人口や予算規模が違う横浜市や大田区のような活動は合志市では難しいかもしれませんが、市民お互いを身近に感じることができるという強みもあると思います。

男女共同参画社会の実現について学ぶことは、私たち一人ひとりが自分の生き方を改めて考えることでもあります。充実した仕事と人生と、より良い暮らしと社会を実現するために、視野を広げるきっかけを多くの人に持ってもらえればと願っています。



上田 欣也さん



何事にも新しいことを始めるとき、その「いっぽ」を勇気を持って踏み出せるように

男女共同参画社会とは

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」です。(男女共同参画社会基本法第2条)



お問い合わせ
合志市役所
総務課総務・男女共同参画班
TEL: 248-1112
FAX: 248-1196
メール: soumu@city.koshi.lg.jp

講演会

男と女 ガマン? 勝負? ささえ愛? 講師 村上 美香さん



熊本県民テレビアナウンサー、「テレビタミン」を始め番組の進行、ニュース、ナレーションのほか、司会、取材、企画、制作など幅広く活躍。2013年からは自身の子宮頸がん罹患体験から「シリーズ子宮頸がん」を放送。番組やインターネットでの情報発信、高校や大学など60カ所以上で講演活動を行っている。

番組「テレビタミン」が始まって21年になります。番組が始まったときは、花の女子アナウンサーブーム。女子アナは番組のおまけでメインキャスターの隣に座って「次は〇〇コーナーです」とそれだけ言えればいいという時代でした。「番組のおまけにはなりたくない。座つとくだけじゃだめなんだ。他の人とは違うことを考えよう、他の人が考えつかないことを考えられるように頑張ろう」と思い、いろんな人に相談してさまざまな取材をするようになりました。今ではシリーズ企画やドキュメントなどを製作するようになりました。

私はカラオケが好きで、奥村チヨさんの「恋の奴隷」をよく歌います。歌詞を見てみるとその時代の考え方や社会が映

りだされています。もう一つ、さだまさしさんの「関白宣言」。女性は男性に黙ってついていく、可愛い女性になりなさいという時代でした。時の流れとともに、夫婦間の形も変化。さだまさしさんの「関白失脚」は、結婚する前とした後で関係性が変わったけど、お互い支えあって生きていこうという応援歌のような気がしています。

取材を通して、いろんなところで助け合っていかなければならないと感じることが多くなりました。「テレビタミン」の「シリーズ子宮頸がん」では、夫婦でのがんを乗り越えていこうという素敵なご夫婦に出会いました。若くして子宮頸がんにかかり、夫婦で頑張っている姿勢、家族やパートナーの役割がどれだけ大きいのかを改めて感じました。がんにかかった友達は「私のようにならないでほしい。だからここで話し、本音を語ることでいろんなことを共有していきたい」と言っています。本音を言えていますか? 本音でなかなか一番近くにいる人には、心配かけたくないと思ってしまうものなのです。

東京おもちゃ美術館による

木のおもちゃ広場

同時開催の木のおもちゃ広場では、おもちゃインストラクターによる「おもちゃの遊び方講座」や積木、さわり織の体験コーナー、押花しおりづくりを行いました。木のぬくもりのあるおもちゃに子どもたちは夢中になって遊んでいました。



NPO法人活動紹介

ロビーには、NPO法人・ボランティア団体の活動紹介ブースを設置しました。



◆ぼっかぼかすずかけ◆

平成23年5月にスタートした住民参加型在宅福祉サービス「ぼっかぼかサポート」事業で、団体登録第1号となった、合志市安心生活サポートグループ「ぼっかぼかすずかけ」です。平成27年2月には地域住民の拠り所、居場所づくりの家「よんなっせ」を開所。高齢者の一人暮らし等に寄り添う支援活動を行っています。

◆ぼっぼの部屋◆

乳幼児(0歳~3歳)の子育てサポートを3つの部門で行なっています。①つどいの広場...乳幼児の親子が気軽に集う場所です。②一時預かり事業...保護者の病気や家族の介護、看護等で保育できない場合に一時的に保育を行ないます。③小規模保育事業...就労等で昼間保育できない保護者に代わって保育する少人数保育です。

◆こどもあーと 九州沖縄子ども文化芸術協会◆

3月24日、25日、人形劇やマジック、音楽、お芝居26作品が一挙に上映される、第3回合志市国際子ども芸術フェスティバルを御代志市民センター他会場で開催します。子どもも大人も楽しめる内容です。ぜひお越しください。詳しくはホームページをご覧ください。

九州沖縄子ども舞台芸術会ひの広場 [検索](#)

◆熊本おじゃめの会◆

今年で設立20周年。健康増進を目的に、楽しく自然と笑顔が出る「ヘルスアートお手玉」を行なっています。参加者とのコミュニケーションをとりながら、素早く指を動かし、頭を使いながらお手玉遊びをすることで脳の若返り効果があります。子どもから大人まで気軽にできるお手玉で心も体も健康になりましょう。

◆熊本転入ママの会 くまてん◆

くまてんは、「熊本へ転入してきたママやプレママがスムーズに熊本に馴染み、まるで地元にいるような楽しい生活を送れる」をコンセプトにしたママ(プレママ)サークルです。転入ママだけの会ではなく、転入ママの目線で、熊本をさらに素敵な街にしたいと活動しています。地元ママも転入ママも興味のある方は、ぜひ参加しませんか。

「19、754人」これは昨年1年間の自殺者数です。割合は男性が7割女性3割。なぜ男性が多いのかというと、女性は人に愚痴でもなんでも話せて、話題を共有し悩みを解消しますが、男性はなかなか人に話せないからです。最近取材で出会った、あいち自殺防止センターを設立した岡山ミサ子さんは、男性にも今こそサポートが必要で「愛する夫の本音を引き出す方法」という講演をしています。

◆相手の気持ちをやわらげる声かけ

①出かけよう
いつもと環境を変えることが大事。外にできるだけ連れ出し、向き合わず横並びの場所。公園のベンチなど。

②最近どうしたの
いつもと様子が違うと思ったときに気がついてることを付け加える。「最近どうしたの?ため息が多いみたい」など。あなたに関心をもっていつも見ていることを伝える。

③いつでもきくよ
今じゃなくていい。話したくなったらでいい。自分は聞く用意はあるんだ。大切なのはあなたに関心がある。あなたの味方だと伝える。

誰もがともに生きていくために、自分でできることはなんなのかを知り、実践するということを一人ひとりがしていけば、きっといろんな人が生きやすい社会になるのではないかと思います。

参加者の声

本音が言えるよう、相手のことを思いやって声かけていきたい。

男女に関係なく、できる人ができることをする社会が一番いいと思う。

家族・夫婦での会話を大切にしたいと思った。

今まで当然と思っていた自分の感覚が正しいのか考えて子どもに伝えていきたい。

感謝の気持ちはそのときに伝えていこうと思う。

